

行政機関向け地域資源管理サービス 「サービス情報共有ページ」の導入事例

・ 神奈川県横浜市 ・

地域包括ケアシステム構築に向けた地域資源の データベース化 (DB化)

横浜市では、生活支援体制整備の一環として、地域資源のデータベース化を行い、地域ケアプラザ（※）・区社協・区役所が、独自に把握した社会資源の情報をシステムに集約しています。関係者で地域の情報を共有することで、地域支援方針が立てやすくなったり、地域と専門職とで目指す地域像が一致しやすくなることを目指しています。

目的① 地域アセスメント ～情報の「見える化」～

課題

紙媒体での地域活動の状況分析は、作成に時間がかかり、各組織で個別に行う負担感がありました。

DB化の メリット

- ①住所入力により活動種別ごとに色分けされ、マップ上に表示・印刷が可能になり、どこにどのような資源があるかマップで確認できるようになりました。
- ②作成したマップを協議体等で、地域と一緒に地域課題を共有する資料として活用できます。



目的② 事業の進捗状況の把握 ～成果の把握と評価～

課題

目指すべき目標は地域ごとに異なり、事業の進捗状況の把握が困難でした。

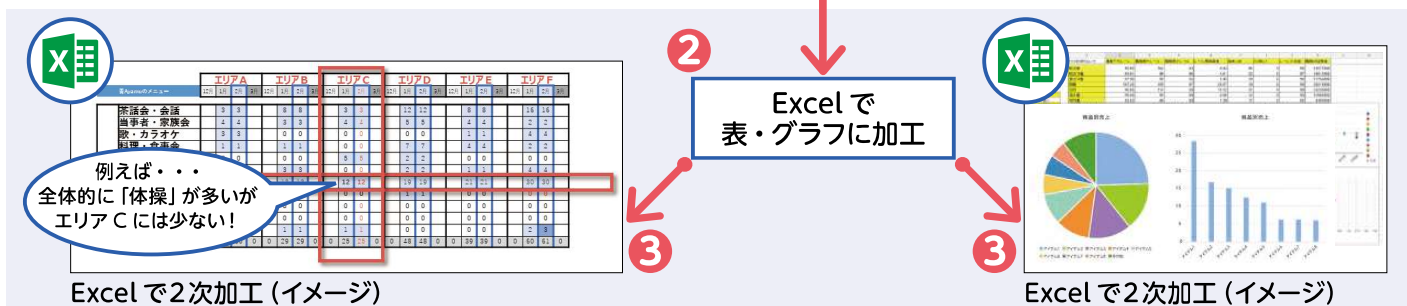
DB化の メリット

システムからエクセルデータを出し、量的な把握がしやすくなるようなマトリックス表を作成することができ、事業の進捗状況が把握できるようになりました。



システム上で任意のカテゴリや調査項目を設定し調査・共有をします。

データ加工



目的③

ケアマネジメント等相談対応

課題

ケアマネジャーから「インフォーマルサービスの情報量が少ない、実態が分からない」といった意見が寄せられていました。また、ケアマネジャーは、各組織が個別に作成しているインフォーマルサービスリストで、地域活動の把握をしていました。

DB化のメリット

データベースで作成したリストを地域包括支援センターとも共有し、活動団体の状況をケアマネジャーに情報提供できるようになります。現在、ケアマネジャーへの情報提供に向け検討中です。

目的④

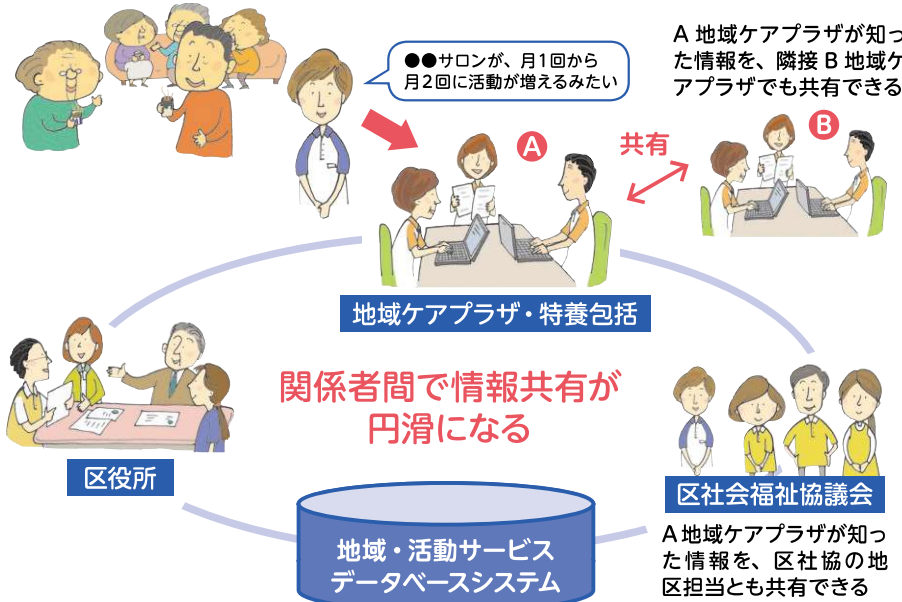
市民等への公表・活用

DB化のメリット

地域住民・民間企業等に対して、ホームページ等で広く情報提供を行うために活用します。現在、公表に向け検討中です。

データベースを活用して関係者間の情報共有を図り、地域包括ケアを推進します

●自主グループ・居場所・サロン●



こんな悩みを解決するためにデータベースを活用しています

運営協議会で地域活動の状況を分かりやすく伝えたい…

地域ごとに、どのような活動があるのか分析したい

情報をジャンルや圏域、種類などに自由に分類して地域ごとの傾向を見てみたい

収集した情報をマップ化できたらいいのに…

窓口に来た方やケアマネさんに必要な情報を一覧としてお渡しできたら便利なのに…

過去にまとめた情報を、後任にも、きちんと引き継ぎしていきたい

解決

地域包括ケアを支援するサイト **AyamU CASIO**

データベースシステムとしてカシオ計算機株式会社の Ayamu を利用しています。

(※)「地域ケアプラザ」は、地域の身近な福祉・保健の拠点として、高齢者や子育て・障害に関する様々な相談や、地域の福祉保健活動の場の提供や活動支援を行っています。また、地域包括支援センターの設置や、第2層生活支援コーディネーターを配置した横浜市独自の施設です。

神奈川県 横浜市

所在地：神奈川県横浜市中区港町 1-1
人口：3,740,367人（平成 30 年 9 月 1 日現在）
[関連部局]
健康福祉局 高齢健康福祉部 地域包括ケア推進課

AyamUサイトは…

カシオ アヤム

検索

or

<https://chiiki-kaigo.casio.jp>



お問い合わせ

経営統轄部 ウェルフェアソリューション推進室

03-5334-4285 (代)

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日、年末年始など弊社指定休業日を除く)

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

AyamU サポートセンター TEL 03-5396-7461